

第三学期終業式式辞

令和5年3月20日

※ 三学期はどうでしたか・・・令和4年度はどうでしたか

今日で、三学期は終業、令和4年度も修業となります。振り返ってどうでしたか。

昨年四月に赴任をして、「始めたら始まり」、「好奇心をもつこと」「何かやってみようぞと熱い思いをもつこと」など伝えてきました。そして私の一貫したテーマが「情理一体」であるということも伝えてきました。新型コロナに負けずに努力を重ねてきた吉高ならではの成果がいくつも出ています。一、二学期の成果はすでに紹介していますが、三学期でも、先日表彰をした愛媛県建築設計表彰で卒業生が愛媛県知事賞を受賞しましたが、一・二年生もそれに続けと松山市長賞など受賞しました。また、日頃からボランティアに取り組んでいる本校の「こっそり国安川遊歩道復興プロジェクト」がポエム賞を受賞しています。最後のピュアマインドは地域からも参加者を募り地域を巻き込んでのボランティアとなりました。更に、来年度愛媛県で行われる第60回全国国際教育研究大会のテーマとして、2年生清家彩奈さんの「愛顔でつなぐ世界 ～持続可能な世界を目指して～」が最優秀となり、来年度大会において使用されることが決定しています。今も継続して何かにチャレンジし続けている方も多いと思います。引き続き令和5年度へ向かって突き進んでください。

※ 平和の重み・・・平和だから明日を創り出すことができる

最後に何を言おうか考えました。今、皆さんがいろいろなことを考え行動できる根幹には、日本は平和な状況を維持しているということがあると思います。今世界で起こっている戦争について、どちらが正しいとかどちら側だとかいう立場にありませんが、戦争が起こっている国では、明日どうなるのか不安を抱えて生きています。平和だからこそ未来を考え、よりよい明日を創り出すことができるのではないかと考えます。一年前の三月四日の朝日新聞の天声人語にウクライナで戦死したロシア兵のスマホに残されていたやり取りが国連総会で紹介されたことが書かれていました。また、女優の大竹しのぶさんも朝日新聞の毎週金曜日の夕刊に連載中の「まあいいか」というエッセイで「戦争なんて絶対にいやだ」という題でまったく同じことを書いておられました。

「どうして返事をくれないの。パパが荷物を送りたいって。本当に訓練中なの。」

「ママ、訓練じゃないよ。本当の戦争が起きている。怖いよ。歓迎されると聞いていたのに。だれも僕たちを歓迎してくれないんだ。」

それが、事実か、戦争の悲劇を伝えるために作られた話かは分かりません。ただ、戦争で多くの命が奪われているのは事実ですし、人為的に破壊された瓦礫や死亡人数の情報が日々ニュースで流れてくるのを見るときはやく戦争が終わることを祈るばかりです。

この双方の記事とも、シャンソン「脱走兵」を紹介していました。フランス作家ボリス・ヴィアンの手によるもので、招集令状を受け取った男が「戦争にはいきたくない」と大統領に出した手紙の内容を歌っています。「僕は逃げるよ、武器はもっていないよ、撃ちたかったら撃つがいい」という内容です。もともとは1954年のアルジェリア戦争のことらしいですが、戦争が起こるたびに反戦歌として歌い継がれているようです。日本では、高石ともやさんという現在80歳を越えられた御高齢の方が、1970年代に日本語訳で歌っておられました。「拝啓大統領殿」や「大統領様」などの題名で何人かがカバーしており、YouTubeでも戦争がはじまってから何らかの意思表示で歌っている方がおられます。紹介します。(1・3番の歌詞を紹介)

引き続き平和な中で、たくさんの方にチャレンジできるとよいですね。この4月からは新入生が入学してきます。先輩としての誇りを失わず、あなたたちの前向きな姿を見せることで、新入生を引っ張ってください。この春休みに勉強や部活動など努力を継続して新年度元気な顔で会えることを願い、3学期の終業式の式辞といたします。